

# 平成28年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-7号)

農林総合研究センター  
平成28年7月8日調査

## 気象経過

1. 6月第6半旬の平均気温は、平年に比べ金沢、輪島ともに並（金沢：-0.2℃、輪島：+0.1℃）となった。日照時間は、平年に比べ金沢、輪島ともかなり多く（金沢：134%、輪島：154%）、降水量は平年に比べ金沢は並、輪島では少なくなった（金沢：108%、輪島：58%）。
2. 7月第1半旬の平均気温は、平年に比べ金沢、輪島ともかなり高く（金沢：+3.1℃、輪島：+2.2℃）なった。日照時間は、平年に比べ金沢は並、輪島ではかなり少なく（金沢：106%、輪島：41%）なり、降水量は平年に比べ金沢は並、輪島では多く（金沢：80%、輪島：151%）なった。
3. 7月7日に新潟地方气象台から発表された、向こう1か月の予報では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率60%です。

## 生育概況等

### 【生育状況】

#### 1. 出穂期

ゆめみづほは、近年に比べ加賀地域で2～4日程度、能登地域で6日程度早くなり、概ね前年並みの出穂期と予想される。

コシヒカリは、近年に比べ加賀地域、能登地域とも3～4日程度早くなり、加賀地域では概ね前年並、能登地域では前年より2日程度早まると予想される。

### 【予想出穂期】

ゆめみづほ 加賀：7月14日～18日（近年より2～4日程度早い）  
能登：7月18日頃（近年より6日程度早い）  
能登ひかり 能登：7月21日頃（近年より2～4日程度早い）  
コシヒカリ 加賀：7月24日～28日（平年より3～4日程度早い）  
能登：7月27日～31日（平年より3～4日程度早い）

#### 2. 草丈

コシヒカリは平年比107%とやや長く、ゆめみづほは近年比107%とやや長い。

#### 3. m<sup>2</sup>あたり茎数

コシヒカリは、平年比96%（加賀地域96%、能登地域96%）と並、ゆめみづほは、近年比100%（加賀地域100%、能登地域100%）と並である。

7月8日

### m<sup>2</sup>あたり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

品種	地域	本数	平年比	前年比	前年比	株当たり
コシヒカリ	県平均	460本	96%	96%	96%	24.6本/株
	加賀	457本	97%	96%	96%	25.0本/株
	能登	465本	95%	96%	96%	23.9本/株
ゆめみづほ	県平均	526本	100%	100%	100%	29.3本/株
	加賀	535本	102%	100%	100%	30.0本/株
	能登	504本	96%	100%	100%	27.5本/株

#### 4. 葉色

コシヒカリの葉色は、前年並に低下しており、平年に比べやや淡い。

### 【病害虫の発生状況】

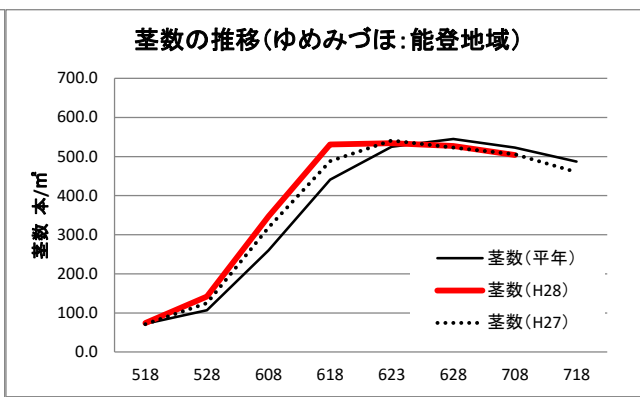
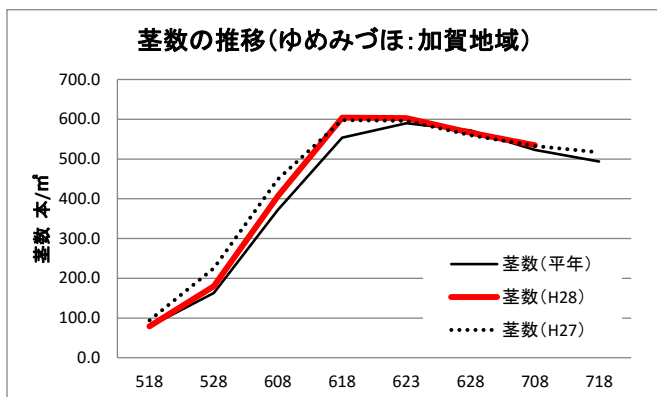
1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多い。
2. 紋枯病の初発生は平年より早く確認されており、今後の気温の高まりにより進展が予想される。
3. 葉いもち病の発生が散見されている。
4. イネツトムシ、ニカメイチュウの食害が散見されている。

## 当面の対策

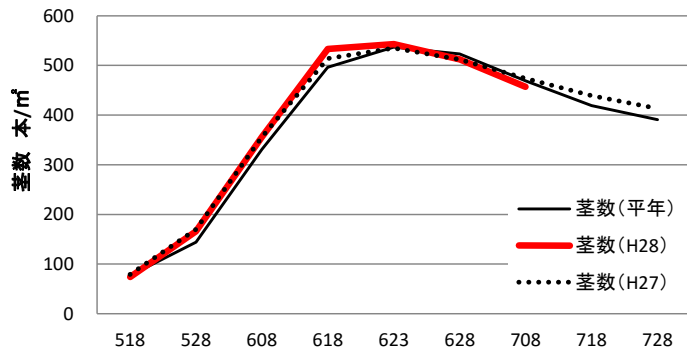
1. ゆめみづほの2回目の穂肥施用は葉耳間長±0 cm（出穂10日前）とし、施肥基準量を守り、遅くとも葉耳間長+2～3 cm（出穂7日前）までに終える。
2. 早生品種は7月14日以降から順次出穂期となるので、出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。  
なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
3. コシヒカリは幼穂形成期に入っており、5月20日以降の圃場においても中干しを終了し早生品種同様、間断通水による飽水管理とする。
4. 減数分裂期（出穂前15～5日）に19℃以下の低温が予想される場合は、可能な限り深水管理とし、不稔籾の発生防止に努める。
5. コシヒカリの1回目の穂肥施用は、幼穂長15 mm（出穂15～16日前）、葉色板値3.5を確認して、遅れずに施用する。但し、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより倒伏を防止する。2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。
6. いもち病の感染好適日が多数確認されており、いもち病の常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの発生を認めたら周辺ほ場を含めて直ちに防除を実施する。  
また、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。
7. 紋枯病の発生はやや多と予想されており、発生を確認した場合、直ちに防除を実施する。
8. 稻こうじ病の防除については、出穂15～10日前に行うこと。
9. 今後の畦畔や農道の除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は、本田防除の直前に行う。  
※本田カメムシ防除の留意点  
7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。  
8月以降に出穂する稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。

### <参考：地域別茎数の推移>

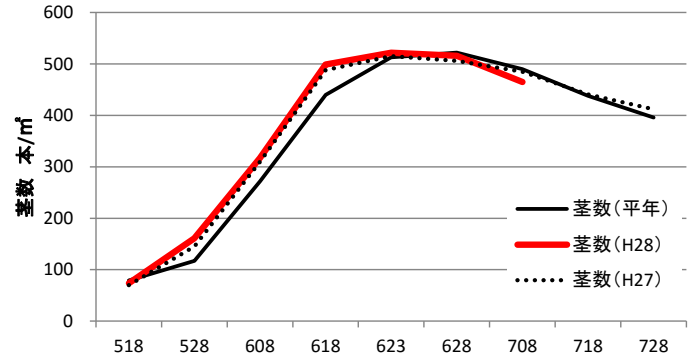
- ・ゆめみづほの最高分げつ期は、加賀地域、能登地域ともに近年よりも4日程度早まり、概ね前年並となった。現在の茎数は近年及び前年並となっている。
- ・コシヒカリの最高分げつ期は、平年に比べ、加賀地域で4日程度、能登地域で6日程度早まり概ね前年並となった。現在の茎数は平年及び前年並となっている。



茎数の推移(コシヒカリ:加賀地域)



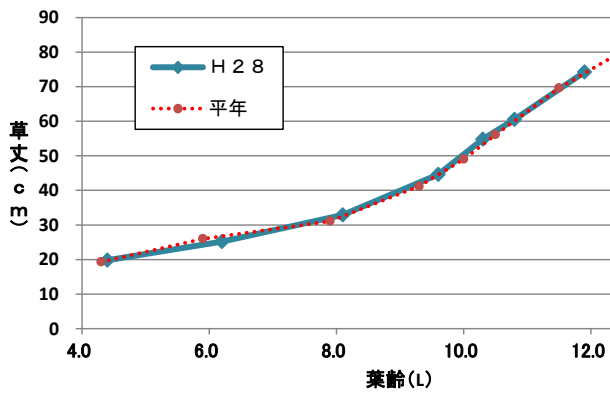
茎数の推移(コシヒカリ:能登地域)



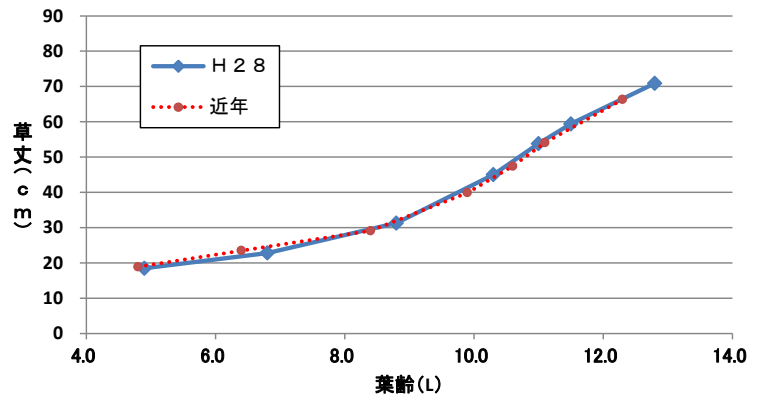
<参考：葉齢における草丈の伸長・茎数の増加>

- ・葉齢を基に草丈を平年（近年）と比較すると、コシヒカリは平年並、ゆめみづほは近年並となっている。
- ・同様に茎数では、コシヒカリで平年並、ゆめみづほでは概ね近年並となっている。

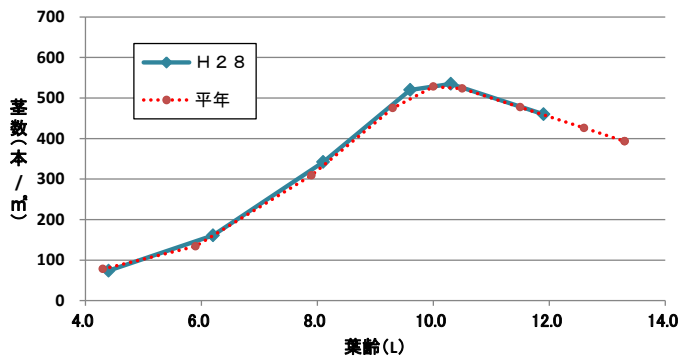
葉齢と草丈(コシヒカリ)



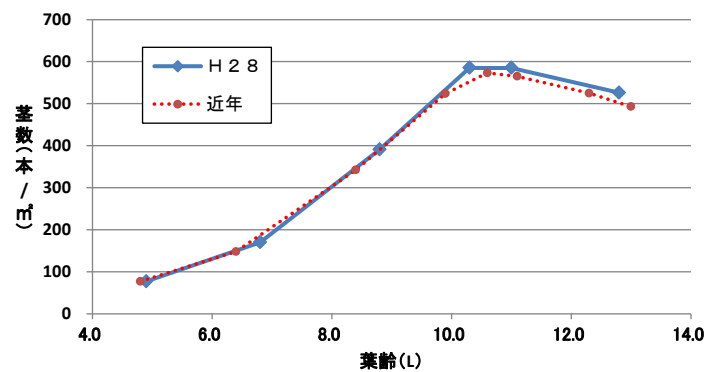
葉齢と草丈(ゆめみづほ)



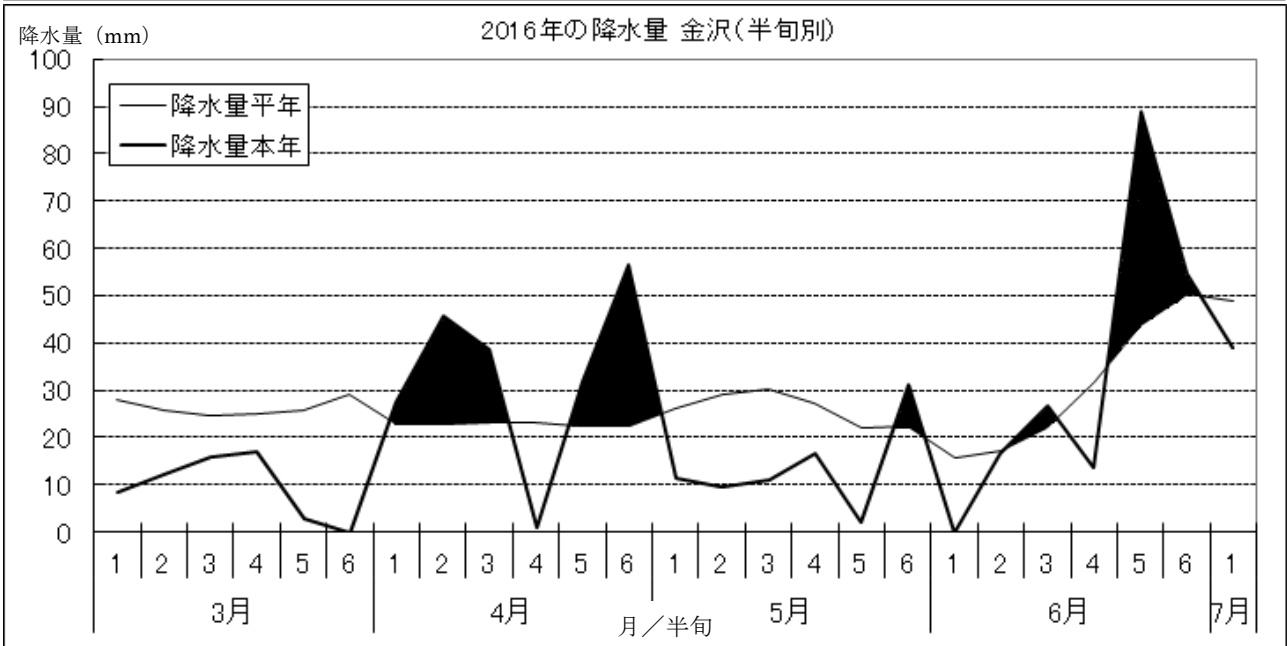
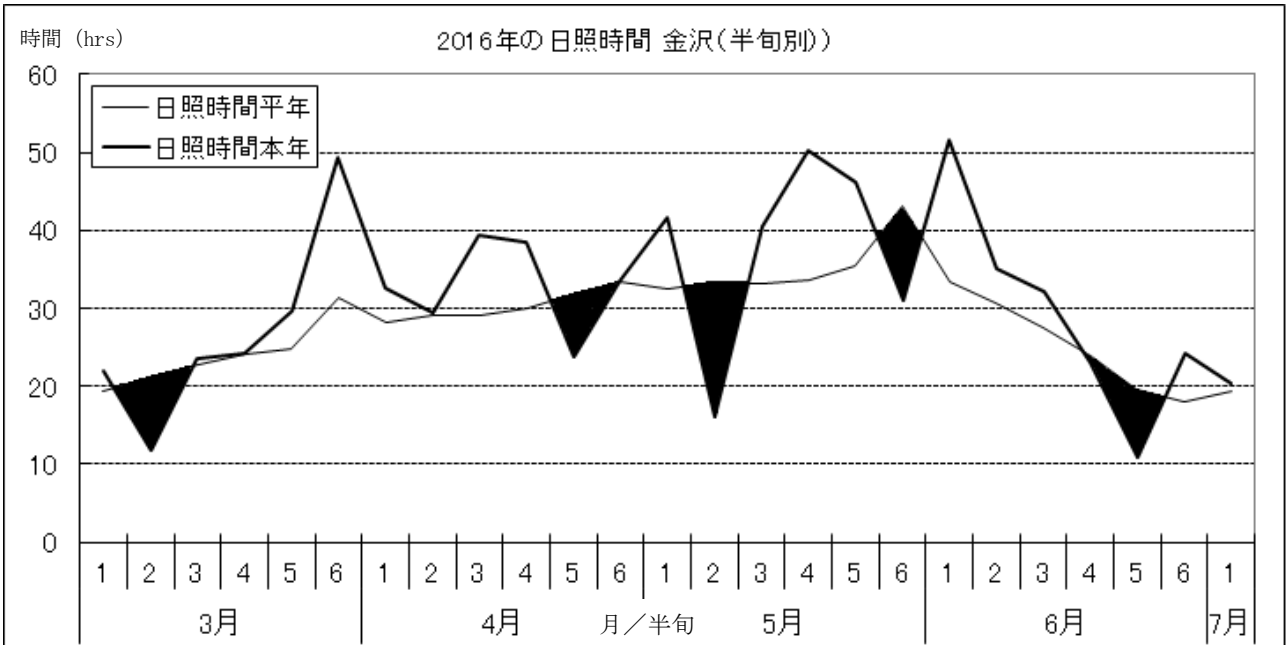
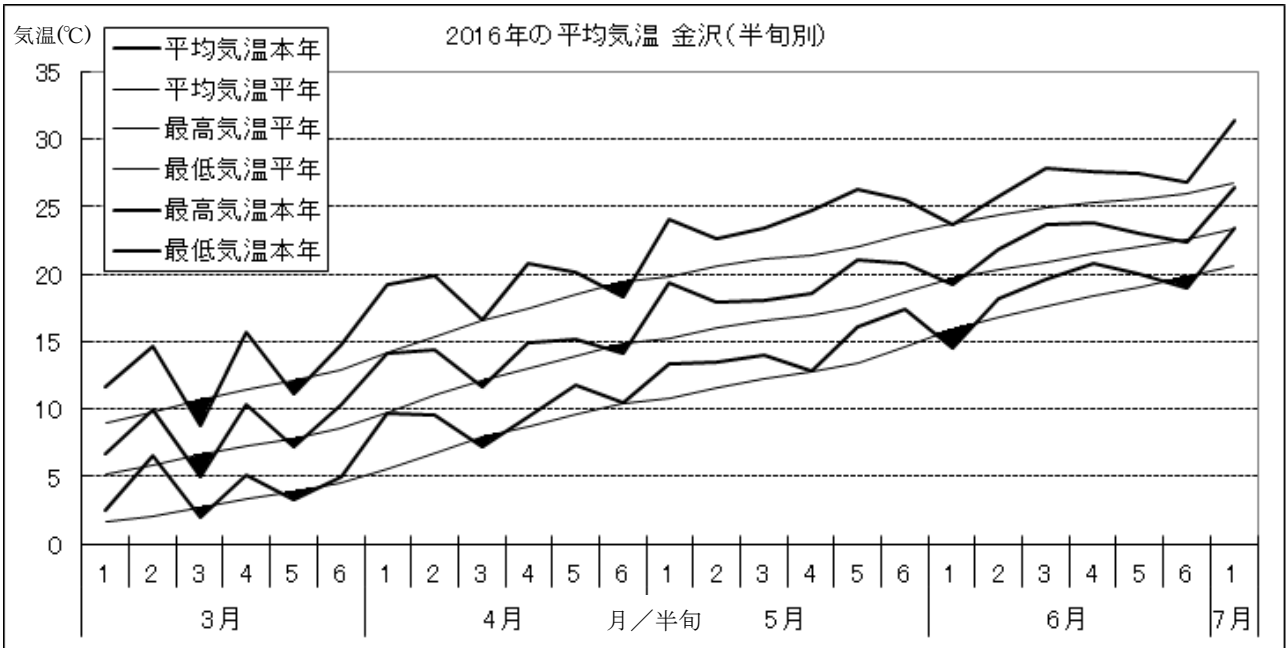
葉齢と茎数(コシヒカリ)



葉齢と茎数(ゆめみづほ)



# 気象経過イメージ (金沢气象台)

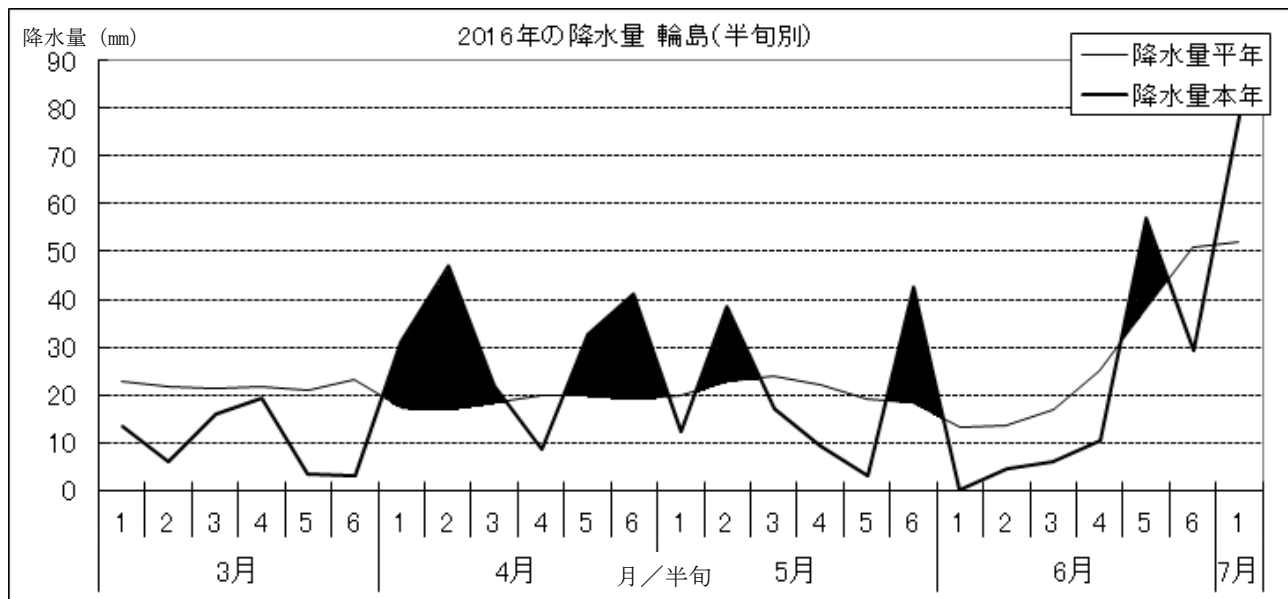
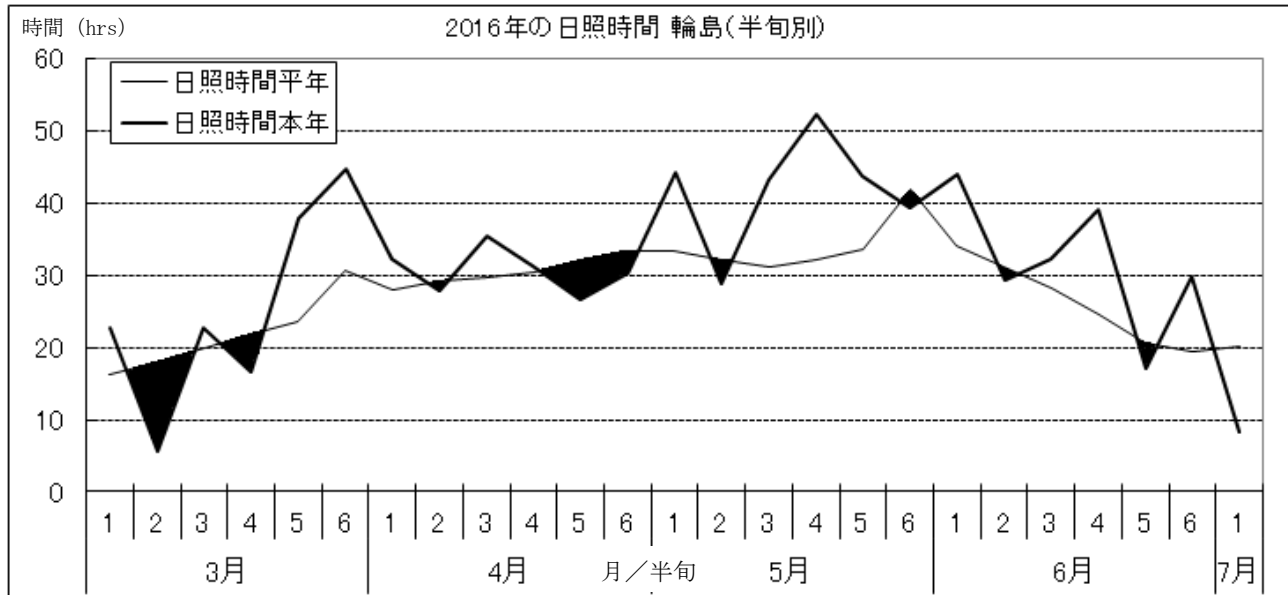
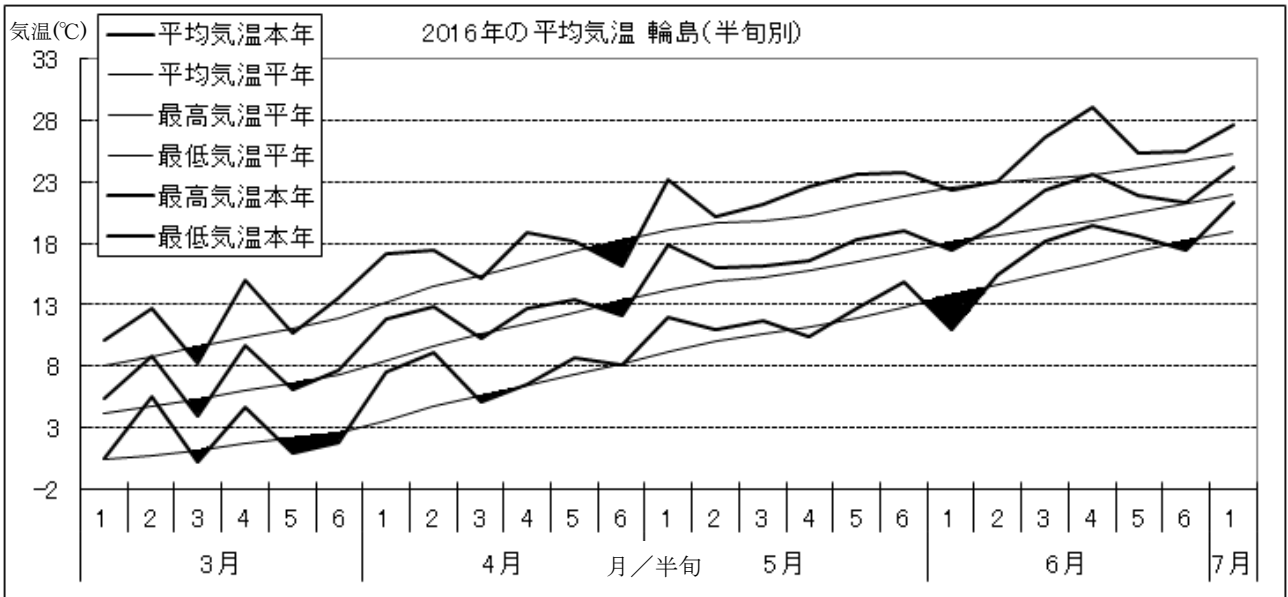


※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い